健康寿命の延伸に向けた
「通いの場」活性化支援
熊本県高森町

介護予防・日常生活支援総合事業

高齢者 | 子ども | 若者 | 地域住民 | 障害者 | 生活困窮者 | 認知症の方 | その他

基礎情報		
	人口（R7.1月時点）	12,606人
	高齢化率（R7.1月時点）	32.1%
	要介護認定率（R7.1月時点）	19.1%
	取組の予算規模（R1~6）	3億9,700万円

詳細はHPから

https://www.town.kumamoto-takamori.lg.jp/page/2228.html

取組概要

- 熊本県高森町では、通いの場の立ち上げに向けた地区説明会を開催し、老朽化した公民館を補助金やふるさと納税を活用し、高齢者が利用しやすい通いの場として整備のうえ、スマホ教室、ドライフラワー教室の催しやボッチャ、UDe-スポーツなどを行うほか、理学療法士による体操指導や体力測定などを実施。
- また、健康推進支援員（集落支援員）を各集落に配置して、生活支援コーディネーターと協力した地域の課題解決に向けた体制づくりなど、さまざまな取組を展開している。

背景・きっかけ

- 公民館再生事業の実施により通いの場に取り組む地区が増えたため。
- 少子高齢化、過疎化が進む中で高齢化率は全国及び熊本県平均を大きく上回っており、それに伴い要介護認定率も増加していくことが予想されるため、健康寿命の延伸を目的に平成31年度から住民主体の通いの場の週1回実施に向けた取組の支援が開始された。

取組の経緯

- 地域のニーズを直接把握するため、通いの場の立ち上げに向けた地区説明会等を開催。



通いの場　公民館整備

取組詳細

- **取組内容**
  - ✓ 県補助金を活用した公民館再生事業：公民館の改修を行い、段差解消や手すりの設置、トイレを洋式化。また、ボッチャセットやUDe-スポーツ（赤・黄・青・緑の4つのボタンで誰もが簡単に楽しめるeスポーツ）の導入、理学療法士による体力測定・体操指導、大型モニター・ノートPC・発電機等の整備を行った。
  - ✓ 健康推進支援員（集落支援員）の配置：特別交付税を活用し、町の費用負担なく、健康推進支援員を各集落に常駐させ、住民主体の通いの場の後方支援やイベント等の企画・運営を実施。生活支援コーディネーターと協力し、各集落のかたろう会（第2層協議体）で課題解決に向けて協議するほか、地域と行政のつなぎ役も担っている。
- **実施体制**
  - ✓ 主体（通いの場の開催、事業補助）：町内各地区、集落支援員
  - ✓ 連携先（通いの場における各種取組の実施）：駐在嘱託員、民生児童委員、社会福祉協議会、民間事業者
- **経費・財源**
  - ✓ 介護基盤緊急整備特別対策事業、ふるさと納税：R1～R6年

成果

- 定量面：
  - 通いの場の数が当初18か所から現在50か所以上に増加。65歳以上の参加率は国が設定する8%の目標率を大きく上回り約20%。
  - 高齢化は進んでいるが、要介護認定率は減少傾向で、国・県平均を下回っている。
  - 介護保険料基準月額が大幅に減額。
- 定性面：
  - 県補助を活用したことで、高齢者でも利用しやすい公民館の整備が町および地元負担はほぼ「ゼロ」で実施。また、集落支援員制度を活用して多くの支援員を雇用したことで、通いの場に関する取組が充実した。
  - 多くの地区で通いの場が実施できており、介護給付費などにも少しずつ効果が見えてきているが、ゴールがあるものではない。今後も継続した実施が必要。

今後の展望

- タブレットによる脳年齢チェックや軽度認知症の疑いがある方の専門医療機関の受診につながるような医療・介護連携、高齢者の外出支援等も充実させていくこと。

「通いの場」活性化支援

熊本県高森町

取組のポイント

- **集落支援員制度の活用**
  集落支援員制度を活用し、多くの支援員を雇用したことで、通いの場に関する取組の充実につながった。



防災DX訓練の様子



ボッチャ大会の様子